

主 題：良き社会人であれ 2**聖書箇所：ローマ人への手紙 13章1-5節**

ローマ人への手紙13章のみことばを見ましょう。

ノアの洪水以降、神は人による統治機関、人が人を治めることをお定めになりました。今、私たちが考えたいことは、神はなぜ、人によるそのような統治機関をお定めになったのかということです。なぜ、そのことを神は良しとされたのでしょうか？人が人を治めていく…。その答えは、そうしなければ罪深い私たちはいろいろな問題をもたらすからです。私たちはきちんと支配されなければ、管理されなければ様々な問題をもたらすからです。イスラエルの歴史を振り返るときに、そのことが度々起こっていました。士師記を見ると17：6、21：25に「そのころ、イスラエルには王がなく、めいめいが自分の目に正しいと見えることを行なっていた。」と繰り返し記されています。

人間は自分の好きなように生きていたいと思う者です。もし、それが許されるなら大変な世の中になってしまいます。私たちはそれに似たことをつい最近も目撃しました。昨年12月18日に、イラクからアメリカ軍が完全撤退をしました。その後どうなったか？イラクでは今もテロが続いています。12月22日には、首都バグダットで自爆を含む少なくとも14件の爆発が発生したと言います。夜にはまたさらに2件の爆発があったと。これらによって市民が約69名も亡くなり、200人以上が負傷したと言います。また、今年になって1月5日にも、イラクの南部ナッシリーアで爆発があって、36名の人が死に70人以上がけがをしたと。バグダットの住宅街で2台の車がほぼ同時に爆発することによって、また、それ以外の所で起こった爆発事件によって24名以上が亡くなり60名以上がけがをしていると、このようなことが日常茶飯事のように起こっています。アメリカ軍が撤退する前に、12月5日の時点で、イラクのマリキ首相は「イラクはアメリカ軍の撤退後、より安全な国となるだろう」と述べていました。しかし、現実はその逆です。大変な問題が今もなお続いています。

人間の罪深さを知っておられる神は、そのために敢えて統治する機構というものを設けられたのです。そして、それ故にパウロは「すべての人々は、それぞれの上に立っているリーダーたちに従っていかねばならない。」という命令を与えたのです。今日も私たちは、ごいっしょに13章から見てゆきますが、リーダに従っていくその理由について見ていきます。これが今日のテーマです。

☆私たちが上に立つ権威者に従う理由

パウロはここで三つのことを教えます。

1. 主のみこころゆえに：主によって立てられたリーダーだから 1-3節

神のみこころのゆえだ、彼らは主によって立てられたリーダーたちだとパウロは教えます。1節「人はみな、上に立つ権威に従うべきです。神によらない権威はなく、存在している権威はすべて、神によって立てられたものです。」パウロは、すべての権威は神によって立てられたと言います。そして、そのことを何度も王たちに神がお教えになりました。立てられている王たちに主ご自身がお教えになっているのです。何度も見ているように、ダニエルの出来事を思い出してください。

●ダニエルがネブカデネザル王の夢の解き明かしをしたとき

ネブカデネザル王が夢を見たとき、その2回ともダニエルが解き明かしをしています。一度目は2章に、二度目は4章に記されています。その時に、主はダニエルを通してネブカデネザルに今話していることを教えています。ダニエル2：37に「王の王である王さま。」とネブカデネザルをこのように呼ぶのです。「天の神はあなたに国と権威と力と光栄とを賜い、」とあります。天の神があなたにそのような国、権威を力を光栄を与えてくださったと教えています。

また、ダニエル4：17にもそのように記されています。この二つ目の夢を見たネブカデネザルに対してダニエルはこのように言います。「この宣言は見張りの者たちの布告によるもの、この決定は聖なる者たちの命令によるものだ。それは、いと高き方が人間の国を支配し、これをみこころにかなう者に与え、また人間の中の最もへりくだった者をその上に立てることを、生ける者が知るためである。』」と。ダニエルのことばを今聞きました。同じ4：32にも「あなたは人間の中から追い出され、野の獣とともに住み、牛のように草を食べ、こうして七つの時があなたの上を過ぎ、ついに、あなたは、いと高き方が人間の国を支配し、その国をみこころにかなう者にお与えになることを知るようになる。」と記されています。夢の解き明かしをしたダニエルは、ネブカデネザルにこのように告げるのです。偶然、そこにあなたが立てられたのではない、神のわざであると告げるのです。

●ダニエルがベルシャツアル王に、王宮の塗り壁に書かれた文字の解き明かしをしたとき

また、5章にはダニエルがベルシャツアル王に対してそのことを教えるところが記されています。王宮の塗り壁に文字が書かれました。何が書かれているのか分からない、だれを呼んでも解き明かすことが出来なかった時に、ダニエルが呼ばれて来るのです。ダニエルは王に対してこのように言うのです。5：21「そして、人の中から追い出され、心は獣と等しくなり、野ろばとともに住み、牛のように草を食べ、からだは天の露にぬれて、ついに、いと高き神が人間の国を支配し、みこころにかなう者をその上にお立てになることを知るようになりました。」。こうしてダニエルは、このベルシャツアル王の父であったネブカデネザルのことを告げるのです。

このようにみことばは、立てられている王は神がお立てになったということを明らかにしています。それがこのローマ書13章でパウロが最初に教えることです。「我々の上に立つ者は神が立てられたのだ」と。そうすると、いくつかの疑問が出て来るはずですが。

疑問1 暴君も神が立てられたのか？

一つ目は、歴史上存在した様々な暴君たち、彼らも神がお立てになったのかという疑問です。悪の象徴のようなリーダーたちが確かに存在しました。だれがそれに当たるのかといういろいろな名前が出て来るでしょう。ある人は「ヒトラー」と言うかもしれません。また、「スターリン」と言うかもしれません。あのカンボジアのポルポト、ウガンダのアミン、もちろん、私たちの国にあっても。ローマにあっても代表的なあのネロは暴君と呼ばれるにふさわしい人物でした。私たちはそのような人たちの思い浮かべることができます。「神さまはあのような人たちをお立てになったのでしょうか？大変なことをした。殺戮を繰り返した。間違いなく、神が喜ばれないことを平気でやって来た。彼らも神がお立てになったのでしょうか？」と。

答えは「イエス！」、神がお立てになったのです。

なぜですか？すでに私たちが見たところですが、ローマ人への手紙9章を開いてください。その理由が記されています。すでに学んだところですから詳しい説明はしませんが、9：17にエジプトのパロに関してパウロがこのように教えていました。「聖書はパロに、「わたしがあなたを立てたのは、あなたにおいてわたしの力を示し、わたしの名を全世界に告げ知らせるためである。」と言っています。」と。「わたしがあなたを立てた」とこの「立てた」ということばは、「あなたを歴史に登場させた、出現させた」という意味をもっています。パロ王が立てられたその目的が述べられているのです。それは神ご自身の力を示すため、神ご自身の名を全世界に告げ知らせるためであると言います。つまり、イスラエルを苦しめ、神の前に心を頑なに続けたあのパロが立てられたのは、神ご自身の栄光を現わすためであると、パウロはそう教えてくれました。神ご自身がご自身の栄光を現わすために被造物をどのようにお用いになるか、そのことに関して、私たち被造物が口を挟む権利は持っていません。なぜなら、私たちは私たちに何かがベストなのかを知らないからです。それを知っているのは神だけです。「神はすべてのことをご自身の栄光を現わすその目的のためにしておられる。」と、神が私たちにくださったこのみことばは私たちにそのように教えるのです。

考えること：

ですから、私たちが考えなければいけないことはこのことです。確かに、パロという人物を見た時に、彼は心を頑なにしました。いろいろな奇蹟を見ても彼は心を頑なにしました。そして、読み方によっては、あたかも神ご自身がパロの心を頑なにしたかのように見えます。しかし、そうではないことを私たちは見て来ました。

(1) パロが心を頑なにしたこと

- ・そのような選択はパロ自身の選択であった。神が無理矢理にそのようなさせたのではない。
- ・神が罪を犯させたのではありません。そのように罪を選択したのはパロ自身だったのです。
- ・そのパロの選択を神は赦された。
- ・そのような選択を彼が行なうことを知った上で神は彼を立てられた。

すべてのことを知っておられる神は、パロがどのような選択をするのかを知った上で、彼をエジプトの上に立てられたのです。何のためにですか？神の栄光を現わすためです。私たちにはどうしてそれが栄光を現わす結果をもたらすのかわかりません。しかし、神は分かっておられるのです。そのことをこのみことばは私たちに教えてくれるのです。

(2) 暴君たち

先に挙げた様々な暴君たち、彼らも確かに神によって立てられました。ただ、私たちが言えることは、彼らはサタンの影響を受けていました。実は、サタンはそのような影響を及ぼすことの出来るものです。

イエス・キリストが公の生涯を始められたときに、サタンによって誘惑をお受けになりました。ルカの福音書4章にその話が記されていますが、その中で、サタンが非常に面白いことを言っています。4：5-7「また、悪魔はイエスを連れて行き、またたくまに世界の国々を全部見せて、：6 こう言った。「この、国々のいっさいの権力と栄光とをあなたに差し上げましょう。それは私に任されているので、私がこれと思う人に差し上げるのです。：7 ですから、もしあなたが私を拝むなら、すべてをあなたのものとしましょう。」と、悪魔はこのように告げて、主イエス・キリストを誘惑するのです。「国々のいっさいの権力と栄光とをあなたに差し上げましょう。それは私に任されているから、私が良しと思う人にそれを上げることが出来るのです。」と。興味深いことは、この発言に対してイエスは否定していないことです。「サタン、あなたの言っていることは間違っている。」とは言うておられません。なぜなら、サタンはこのようなことを為すからです。私たちはみな生まれながらにサタンの奴隷として、サタンに仕える者として生まれて来ています。ですから、主イエスがヨハネの福音書8：44で言われたように、「あなたがたは、あなたがたの父である悪魔から出た者であって、あなたがたの父の欲望を成し遂げたいと願っているのです。」と、確かにその通りです。

- ・生まれながらにすべての人は、サタンの欲望を成し遂げることを願って生きている。
ですから、罪に罪を重ねて来ているのです。私たちはサタンを喜ばせることを選択して生きて来たのです。
- ・サタンは、ある人々に特別に働いて彼の目的を果たすために人々を用いようとする。
私たちはそのようなことを実際に見て来ました。でも、忘れてはならないことは、サタンは確かにそのように働いて彼の目的を果たすために人々を用いようとはしますが、
- ・サタンは神の許可なしに行なうことは出来ない。
私たちの理解を超えた神の知恵によって、神はサタンが力を発揮することを赦されているということです。ですから、サタンは自分の思いのままに、自分を信じ自分に従う者たちを増やすために、人が自分に益々忠誠を尽くすためにいろいろなことをします。ときに、ある人たちを用いてそのような働きをしようとするでしょう。神はすべてのことを知った上で許可を与えるのです。
- ・パロが立てられたのと同じように、主はご自身のみこころを為された。
なぜ、そのように神は許可されるのでしょうか？先ほど、私たちはパロのところで見ました。パロが立てられたのは、主ご自身の栄光を現わすため、主ご自身の目的を果たすためであると。同じように、このような暴君たちも、サタンの影響を受けた彼らも、神はご自身の栄光を現わすために、ご自身の目的を果たすために敢えてこれらの人たちを立てられたということです。こうしてみことばを見るときに、私たちはそのように教えられます。

疑問2 悪政の転覆を企てることは正しいのか？

もう一つの疑問は、自分たちの国の悪政を転覆させること、悪政の転覆を企てることは正しいのかどうかということです。なぜなら、そのようなことは私たちの周りで数々起こっているからです。フィリピンでも起こりました。マルコスが追放されました。また、最近「アラブの春」といって多くの独裁者たちが追放され処刑される様子を我々はマスコミを通して見てきました。人々は言うでしょう。「大変な独裁者だ。国民をこんなに苦しめたのだから当然の報いである。」と。果たしてそうでしょうか？

答えは、NO！

聖書に照らし合わせるときに、その悪政がどんなに酷くても転覆を企てることは間違っています。なぜですか？すでに見て来たように、そのような人たちもだれが立てたのか？神ご自身が立てたからです。ですから、その政府を壊そうと企てることも、それを実際に行なうことも、すべて主のみこころに反することだと言うのです。これはまた後で出て来ます。ですから、確かに私たちは現状を見て、このようなりーダーに従うことは正しくないように思えても、みことばが私たちに教えるのは「従いなさい」です。このローマ書13：1には、パウロはそのリーダーたちの条件を何も記していないということを見ました。たとえ、その人がどのような人であっても、そのリーダーシップに従っていきなさいと言うのです。私たちの上に立てられている権威者、組長、首相がどんな人であっても、私たちの責任は変わらない。「従いなさい」です。

この命令を与えたパウロは、前回も見たように、その当時はローマ帝国がすべてを支配していましたから「その権威に従いなさい」ということでした。このような命令を与えたパウロはよく知っていたのです。よく覚えているのです。私の最も愛する主イエスを殺すことを許可したのはだれですか？このローマです。本来ならば、自分の最も愛する者をこんな目に遭わした政府に対して、そのリーダーたちに対して憎しみを抱いてしかるべきでしょう。みな納得するかもしれませんが、しかし、そのことを知った

上でパウロが勧めることは「その権威に従え」です。たとえ、自分の愛する主が十字架で殺された、その権威であったとしても、それを許可した権威であったとしても、それに従うようにと言うのです。彼らがみことばに反することを命じない限り、私たちは従っていかなければならないとパウロは私たちに教えるのです。彼らは主のみこころによって立てられている。ゆえに、彼らに逆らうということは主の前に間違っていると言うのです。

●権威者に逆らった結果

2節に、二つの結果が記されています。「したがって、権威に逆らっている人は、神の定めにそむいているのです。そむいた人は自分の身にさばきを招きます。」、もし、あなたが立てられている権威に逆らっているなら、そこには二つの大きな問題があると言います。

(1) 主に逆らうこと：神の定めにそむいている

(2) そこにはさばきがある：自分の身にさばきを招く

「さばきを招きます。」とあります。神の警告は、あなたが立てられているその権威に従わないなら、あなたの身にさばきが出て来ると言うことです。当然、私たちがここで考えるさばきは「神からのさばき」か、それとも「人間からのさばき」か、どちらを指しているのかということなのです。

●さばきについて

(1) 神のさばき

ローマ書12：19からもう一度振り返って見ると、ここに記されている「さばき」は神がお与えになるさばきのことでした。「愛する人たち。自分で復讐してはいけません。神の怒りに任せなさい。」と、個人的に、あなたに対して悪を為す者に対して悪をもって報いてはならない、復讐してはならない、仕返しをしてはならないという命令でした。19節に続いて「復讐はわたしのすることである。わたしが報いをする、と主は言われる。」とあります。ですから、ここで言われている「報い」は明らかに神ご自身が為さるものです。神ご自身が為さるさばきです。ですから、あなたがあなたに対して悪を企て、悪を行なうような人たちに、あなた自身が手を下してはいけません。必ず、神がその悪を明らかにしてさばきを下されるから、その神に任せておきなさいと教えられているのです。神に逆らい続ける者たちを、神はさばき、それぞれの罪を公正にさばかれます。その日がやって来ます。我々はそのことを知っています。確かに、12：9を見たときに、この「さばき」は神が神に逆らう者たちに下される神の審判、神のさばきであるとみことばは教えています。

(2) 人のさばき

13：2にある「さばき」は、どうもその「神さばき」ではなくて「人間によるさばき」を教えるように見ることができます。なぜなら、3節を見てください。「支配者を恐ろしいと思うのは、良い行ないをするときではなく、悪を行なうときです。権威を恐れたくないと思うなら、善を行ないなさい。そうすれば、支配者からほめられます。」、これは支配者と人々との関係のことです。神との関係ではありません。まして、4節を見ると、後半ですが「彼は無意味に剣を帯びてはいないからです。彼は神のしもべであって、悪を行なう人には怒りをもって報います。」とあります。ですから、ここに見る「さばき」は12：19で言われている神の最後の審判のことではなく、その権威者がもたらすさばき、つまり、「人のさばき」であると結論づけることができます。権威者たちに悪を働いたら、彼らがあなたたちをさばくことになるというのです。これは今の社会でも同じです。私たちがこの世の法律を犯すならどうなりますか？必ずさばかれます。私たちが支配者を恐れるのは、悪に対する権威者によるさばきがあるからです。

ですから、パウロがここで言うことは「神がお立てになったその権威にあなたが逆らうならば、その権威者たちがあなたをさばくことになる。」です。しかし、もしあなたが良いことを行なうのであれば、そこにはさばきではなく称賛があると言います。3節に「支配者を恐ろしいと思うのは、良い行ないをするときではなく、」と「良い行ない」ということばがあります。後半には「権威を恐れたくないと思うなら、善を行ないなさい。」、「善を行ないなさい。」ということばが出て来ます。この二つは同じギリシャ語が使われています。つまり、パウロはここで「あなたたちはあなたたちの支配者に対して、あなたたちのリーダーに対して、常に良いこと、それを行ないなさい」と言うのです。このギリシャ語をもし英語に訳すなら、それは「GOOD」です。そのようなことを行なっていきなさいと言うのです。どんな政府であったとしても、どんなリーダーたちであったとしても、彼らに悪を行なうのではなくて、彼らに逆らうのではなくて、彼らの前に正しいことを為していきなさいと。

かなり前のことですが、その当時はまだソ連でしたが、ある町を訪問したときに、私はそこにいるロシアのクリスチャンのリーダーに質問をしました。なぜ質問をしたのかというと、約2週間の予定でソ連に入ったのですが、その1週間が経って、もうそこにいることが苦痛に感じたのです。私たちの行動

はすべて尾行されて、ホテルの部屋も全部監視され、全部盗聴されています。どこで何をしても、すべてだれかが見えています。そのような1週間を過ごした私たちは「もう、早く日本に戻りたい」という思いを強く持っていました。だから、そのような国で生きているクリスチャンに私が最初に質問したかったことは「あなたたちも早くこの国から出たくないですか？」でした。「たった1週間しかいないのに私は早く出たい。あなたたちはここに住んでいる。そう思いませんか？」と。今でも忘れることができないのは、そのリーダーがそれに答えて言われたことです。「全然！確かに、大変な国かもしれないけれども、神が私をここに置いてくださった。神の恵みをいただいて、ここであって忠実に生きていきます。」と、まさに、私たちがみことばで教えられることです。どんな国にあらうと、どんなリーダーが立てられていようと、私たちの責任はここであって神が喜ばれる社会人として国民として生きることです。立てられた者に対して悪を働くのではなくて、前回見たように、私たちは彼らのために祈り、彼らの前に正しいことを為していくことです。

なぜ、私たちは立てられたリーダーに従うのか、それが「主のみこころだから」です。

2. 主のしもべゆえに

これが二つ目の理由です。4節に「それは、彼があなたに益を与えるための、神のしもべだからです。」と記されています。彼らは主のしもべなのです。後半にも出て来ます。「彼は神のしもべであって、」と。不思議なことばが使われています。「神のしもべ」とは、イエスを信じ、イエスを愛し、イエスに従っている者たち、その人たちのことを「神のしもべ」と私たちは呼びます。しかし、ここで言われている権威者たちは、必ずしも、神に従っている者たちではありません。クリスチャンではないのです。しかし、その人たちに対して「神のしもべ」と呼んでいるのです。なぜですか？それはこの権威者たちが神の目的を果たす者たちであるということを強調したのです。この人たちは神の目的を果たすためにこの立場に立てられているのです。だから「神のしもべ」なのです。

そして、彼らに託されているその責任とはどういうものでしょう？大きく二つのことを見ることができます。

●権威者たちが立てられた目的、彼らに与えられた務めとは？

(1) あなたに益をもたらす

あなたに益をもたらすことです。4節の初めに「それは、彼があなたに益を与えるための、神のしもべだからです。」とありました。この「益」といことばは、先ほど3節で見た「良い行ない」の「良い」、また、後半に出て来た「善を行ないなさい」の「善」とみな同じギリシャ語です。ですから、私たち国民は、その立てられている権威に対して良いこと、GOODであることを行ないなさい。そして、立てられている権威者は国民に対して良いこと、GOODを行なうという、そのような務めが与えられているというのです。どのような務めでしょう？

(a) 国民の安全を守る

その国民の安全を守るということです。パウロ自身はローマ市民でした。そのローマ市民権が彼を守ってくれていました。どういうことか、覚えていますか？ピリピにあってパウロはシラスとともに投獄されました。むち打たれた後、彼らは投獄されたのです。そして、その翌日、使徒の働き16:35-39「夜が明けると、長官たちは警吏たちを送って、「あの人たちを釈放せよ。」と言わせた。:36 そこで看守は、この命令をパウロに伝えて、「長官たちが、あなたがたを釈放するようにと、使いをよこしました。どうぞ、ここを出て、ご無事に行ってください。」と言った。:37 ところが、パウロは、警吏たちにこう言った。「彼らは、ローマ人である私たちを、取り調べもせずに公衆の前でむち打ち、牢に入れてしまいました。それなのに今になって、ひそかに私たちを送り出そうとするのですか。とんでもない。彼ら自身で出向いて来て、私たちを連れ出すべきです。」:38 警吏たちは、このことばを長官たちに報告した。すると長官たちは、ふたりがローマ人であると聞いて恐れ、:39 自分で出向いて来て、わびを言い、ふたりを外に出して、町から立ち去ってくれるように頼んだ。」、ここにローマ市民権をもっている者の特権が記されています。

同じ使徒の働き22章を見てください。今度はエルサレムに場所が移ります。22:23-29「そして、人々がわめき立て、着物を放り投げ、ちりを空中にまき散らすので、:24 千人隊長はパウロを兵營の中に引き入れるように命じ、人々がなぜこのようにパウロに向かって叫ぶのかを知ろうとして、彼をむち打って取り調べるようにと言った。:25 彼らがむちを当てるためにパウロを縛ったとき、パウロはそばに立っている百人隊長に言った。「ローマ市民である者を、裁判にもかけずに、むち打ってよいのですか。」:26 これを聞いた百人隊長は、千人隊長のところに行き報告し、「どうなさいですか。あの方はローマ人です。」と言った。:27 千人隊長はパウロのところに来て、「あなたはローマ市民なのか、私に言ってくれ。」と言った。パウロは「そうです。」と言った。:28 すると、千人隊長は、「私はたくさんの金を出して、この市民権を買ったのだ。」と言った。そこでパウロは、「私は生まれながらの市民です。」と言った。:29 このため、パウロを取り調べようと

していた者たちは、すぐにパウロから身を引いた。また千人隊長も、パウロがローマ市民だとわかると、彼を鎖につないでいたので、恐れた。」、この当時、ローマ市民は大変恵まれていました。今見たように、裁判にかけないで彼らを罰することは出来なかったのです。そのようにされたのでパウロはそのことを訴えるのです。

ですから、ローマ市民というその市民権をもっているだけで彼らはこのように擁護されているのです。実は、これは珍しいことではありません。皆さんが海外に出かけるときに使うパスポートを見ると、そのように記されています。「日本国民である本旅券の所持人を通路故障なく旅行させ、かつ、同人に必要な保護扶助を与えられるよう、関係の諸管に要請する。日本国外務大臣」と。その下には英語で書かれています。何ごとも支障もなく旅行できるように、もし必要が生じたときには、彼らに可能な補助と保護が与えられるように、困ったときに助けてください、守ってくださいということです。なぜなら、この人たちは日本国民だからです。どこの国もそうです。ですから、その国のリーダーたちは国民の安全を守るといふ権利をもらっています。

(b) 国民の利益を守る

同時に、国民の利益を守るという責任が与えられています。

(2) 悪をさばく

「悪をさばく」という責任もリーダーたちに与えられています。4節「もしあなたが悪を行なうなら、恐れなければなりません。彼は無意味に剣を帯びてはいないからです。彼は神のしもべであって、悪を行なう人には怒りをもって報います。」、このように記されています。「剣」ということばがあります。これは武器です。剣によって死をもたらすこともあるのです。このような権威の座にある者たちは、このような剣を帯びていたのです。腰に巻いていたのです。何のためでしょう？神学者ジョン・マレーはこのように言います。「彼の装備として最も重要なものとして帯びている剣は、単に、彼の権威の印であるだけでなく、剣による刑罰を科すことによって権威を振るう彼の権利の印である。」と。つまり、権威ある者だということを表わすだけでなく、自分は悪を行なった人々に刑罰を課すことが出来る、その権利を持っているということの象徴だったのです。ここでパウロは、悪を行なった者に対して、剣を用いて報いを与えることを教えているのは明らかです。刑の執行のことです。権威者たちはその権威を持っているということです。ですから、

- ・人が犯した犯罪に対して刑罰を執行することができた。
- ・その犯罪が重い場合は死刑を執行することができた。

このことは、聖書の教えです。聖書は死刑を教えています。ノアの洪水の後、神はそのことをノアとの契約の中でお話しになっています。創世記9章6節に「人の血を流す者は、人によって、血を流される。神は人を神のかたちにお造りになったから。」、つまり、だれかを殺した場合、自分自身が同じ刑を受けると言うのです。

ですから、パウロは使徒の働き25章でこのように証しています。フェストの前に立ったパウロですが、25：11「もし私が悪いことをして、死罪に当たることをしたのであれば、私は死をのがれようとはしません。しかし、この人たちが私を訴えていることに一つも根拠がないとすれば、だれも私を彼らに引き渡すことはできません。私はカイザルに上訴します。」と、パウロの告白を聞くと、もし自分が悪いことをして、その悪いことが死罪に当たることなら私は死を逃れようとはしませんと言っています。つまり、処刑されてもかまわないというのです。聖書はそのように教えているのです。ノアの洪水の後、神がそのことを命じたのです。そうしなければ世の中に悪が増大するからです。人々が自分の目に良いと思うことをやり始めると、無政府状態で大変なことになっていくのです。ですから、神はお定めになったのです。権威者にはその権利がある。行なったことに応じて刑罰を与えるという権利です。そして、その刑罰が死である可能性もあるのです。

なぜ、立てられたリーダーたちに従うべきなのか？彼らは主のしもべであると。神の目的を果たすという目的をもって立てられている者たちだと言うのです。

3. 主からの良心のゆえに 5節

5節「ですから、ただ怒りが恐ろしいからだけでなく、良心のためにも、従うべきです。」、この「良心」とは神に向けられたものです。つまり、神の前に正しいことが何か、そのことを判断して、そして、従っていくことです。ですから、パウロが「上に立つ権威に従う」ことに対して「良心のためにも、従うべきです。」と言うのは、あなたがたは何が神のみこころが分かっているでしょう？あなたの上に立てられている権威者にあなたが従っていくこと、それこそ神のみこころであると知っているでしょう？そうしなければさばかれるから、いやいやだけれど従いましょう…ではなくて、それが主のみこころだから

あなたは進んで従っていきなさい、あなたの良心のゆえにということです。神はそのように私たちに働いてくださるのです。確かに、生まれながらに私たちは良心をもっています。ある程度の判断はできます。しかし、イエスを信じた後、我々はこのみことばを通して、内住する聖霊を通して、何が正しくて何が間違っているのかを判断することの出来る者になりました。みこころだから私たちは従っていこう、主が喜ばれることだから従っていこうと。パウロは言います。「従わなかったら何かさばきがあるから、恐ろしいから従おうではなくて、それが正しいことだから、主のみこころだから従っていこうと、そうしてあなたの上に立てられている権威者に従っていきなさい。」と。

私たちの国にもいろいろなリーダーが立っています。毎日、ニュースを見たり聞いたりすると私たちはいろいろな思いをもちます。しかし、みことばが教えていることは、彼らは神によって立てられているということです。私たちは前回も学んだように、彼らのために祈っていくことです。みこころがなされていくこと、彼らが本当に救いに至るように、主のみこころがなされるように彼らのために祈ります。私たちに神が期待しておられるその責任は、私たちはリーダーたちを覚えて、そのリーダーシップに従っていこうとすることです。

皆さん、主の関心は、主の贖いによって救われたあなたが、この地上にあって神の栄光を現わしていくことです。あなたの神がどんなにすばらしいかを人々の前に明らかにしていくことです。そのためには、このみこころを行なうことです。どうぞ、主が喜ばれるそんな社会人として、そんな国民として歩んでください。これが私たちに主が望んでおられることです。そのみこころに従いながら、主の栄光を現わしていきましょう。

《考えましょう》

1. 我々が上に立つ権威者に従うことが、どうして大切なのでしょうか？
2. 彼らに対する正しい態度を挙げてください。